

平成21年度版 特記仕様書の正誤表

赤:追加・変更 青:削除

誤											正											備 考	
第 1 編 共通編 第 3 章 無筋・鉄筋コンクリート 第 3 節 特仕 3－3－2 表 3－1 配 合 表											第 1 編 共通編 第 3 章 無筋・鉄筋コンクリート 第 3 節 特仕 3－3－2 表 3－1 配 合 表											誤植 誤植	
No	種 別	コンクリートの種類	呼び強度 ² N/mm ²	スランプ cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類	単位セメント量 kg	空気量 %	J I S規 格 の有無	摘 要	No	種 別	コンクリートの種類	呼び強度 ² N/mm ²	スランプ cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類	単位セメント量 kg	空気量 %	J I S規 格 の有無	摘 要		
1	PC横桁・PC桁間 コンクリート・ PCホーロースラブ の間隔	普通	30	8	25	N	－	4.5	○		1	PC横桁・PC桁間 コンクリート・ PCホーロースラブ の間隔	普通	30	8	25	N	－	4.5	○			
2	PCスラブ桁の間詰	〃	24	8	25	〃	－	4.5	○		2	PCスラブ桁の間詰	〃	24	8	25	〃	－	4.5	○			
3	PCボステン主桁	〃	40	8	25	H	－	4.5	○		3	PCボステン主桁	〃	40	8	25	H	－	4.5	○			
4	合成床版	〃	30	8	25	N	－	4.5	○		4	合成床版	〃	30	8	25	N	－	4.5	○			
5	非合成床版、RC床版 (鉄筋コンクリート) 側溝蓋	〃	24	8	25	〃	－	4.5	○		5	非合成床版、RC床版 (鉄筋コンクリート) 側溝蓋	〃	24	8	25	〃	－	4.5	○			
6	(鉄筋コンクリート) 地覆・壁高欄	〃	24	8	25	B B	－	4.5	○		6	(鉄筋コンクリート) 地覆・壁高欄	〃	24	8	25	B B	－	4.5	○			
7	場所打杭 水中：ペノト杭 リバース杭	〃	30	15	25	〃	350 以上	4.5	○		7	場所打杭 水中：ペノト杭 リバース杭	〃	30	15	25	〃	350 以上	4.5	○			
8	場所打杭 大気中：深礎工	〃	24	8	25	〃	－	4.5	○		8	場所打杭 大気中：深礎工	〃	24	8	25	〃	－	4.5	○			
9	トンネル覆工用 (機械打設)	〃	8	5	40	〃	－	4.5	○	(単位セメント量 270以上)	9	トンネル覆工用 (機械打設)	〃	18	15	40	〃	－	4.5	○	(単位セメント量 270以上)		
10	トンネル施工用 (インパート打設)	〃	8	8	40	〃	－	4.5	○	(単位セメント量 240以上) 側壁導坑の一次覆工 含む	10	トンネル施工用 (インパート打設)	〃	18	8	40	〃	－	4.5	○	(単位セメント量 240以上) 側壁導坑の一次覆工 含む		
11	(鉄筋コンクリート) 水門・排水機場(上 屋を除く)・堰	〃	21	8	25	〃	－	4.5	○		11	(鉄筋コンクリート) 水門・排水機場(上 屋を除く)・堰	〃	21	8	25	〃	－	4.5	○			
12	(鉄筋コンクリート) 橋台・橋脚・函渠類 ・鉄筋コンクリート 擁壁・樋門・樋管	〃	24	8	25	〃	－	4.5	○		12	(鉄筋コンクリート) 橋台・橋脚・函渠類 ・鉄筋コンクリート 擁壁・樋門・樋管	〃	24	8	25	〃	－	4.5	○			
13	砂防護岸に使用する 石積(張)胴裏込	〃	21	8	25	〃	－	4.5	○	気象作用の激しい所	13	砂防護岸に使用する 石積(張)胴裏込	〃	21	8	25	〃	－	4.5	○	気象作用の激しい所		
14	河川護岸及び砂防護 岸に使用する石積 (張)胴裏込	〃	18	8	25	〃	－	4.5	○		14	河川護岸及び砂防護 岸に使用する石積 (張)胴裏込	〃	18	8	25	〃	－	4.5	○			
15	厚16cm未満の側溝・ 集水溝・石積(張) 胴裏込・管渠	〃	18	8	25	〃	－	4.5	○		15	厚16cm未満の側溝・ 集水溝・石積(張) 胴裏込・管渠	〃	18	8	25	〃	－	4.5	○			
16	重力擁壁・モタレ擁 壁	〃	18	8	40	〃	－	4.5	○		16	重力擁壁・モタレ擁 壁	〃	18	8	40	〃	－	4.5	○			
17	石積・ストンガード ・標識及び照明灯基 礎・厚16cm以上の側 溝等	〃	18	8	40	〃	－	4.5	○		17	石積・ストンガード ・標識及び照明灯基 礎・厚16cm以上の側 溝等	〃	18	8	40	〃	－	4.5	○			
18	重力式橋台	〃	21	8	40	〃	－	4.5	○		18	重力式橋台	〃	21	8	40	〃	－	4.5	○			
19	重力式擁壁	〃	21	8	40	〃	－	4.5	○	気象作用の激しい所	19	重力式擁壁	〃	21	8	40	〃	－	4.5	○	気象作用の激しい所		
20	均しコンクリート	〃	18	8	40	〃	－	4.5	○		20	均しコンクリート	〃	18	8	40	〃	－	4.5	○			
21	セメントコンクリー ト舗装	舗装	(曲げ 強度) 4.5	2.5	40	N	－	4.5	○	(単位セメント量 280～350)	21	セメントコンクリー ト舗装	舗装	(曲げ 強度) 4.5	2.5	40	N	－	4.5	○	(単位セメント量 280～350)		
22	(河川)護岸基礎・ 根固ブロック・護岸 コンクリート張(平 場)・堰(無筋)	普通	18	5	40	B B	－	4.5	○		22	(河川)護岸基礎・ 根固ブロック・護岸 コンクリート張(平 場)・堰(無筋)	普通	18	5	40	B B	－	4.5	○			

23	(河川) 護岸コンクリート張 (法面)	普通	21	3	40	〃	—	4.5	—	
24	(河川) 護岸基礎・根固ブロック・護岸コンクリート張 (平場)・堰 (無筋)	〃	21	5	40	〃	—	4.5	○	気象作用の激しい所
25	(河川) 護岸コンクリート張 (法面)	〃	21	3	40	〃	—	4.5	—	気象作用の激しい所
26	(河川・海岸) 護岸均しコンクリート	〃	—	3	25	〃	170以上	—	—	
27	(海岸) 波返し・表法張・基礎	〃	24	8	40	〃	—	4.5	○	
28	(海岸) 無筋コンクリート擁壁	〃	24	8	40	〃	—	4.5	○	
29	(海岸) 根固ブロック 10 t 以上	〃	24	5	80	〃	—	(4.0)	—	

30	(砂防) 主副ダム・側壁 (砂防) 10 t 以上の根固ブロック	〃	18	5	80	〃	—	4.0	—	現場配合の場合は設計図書に示す
31	(砂防) 主副ダム・側壁 (砂防) 10 t 以上の根固ブロック	〃	21	5	80	〃	—	4.0	—	気象作用の激しい所 現場配合の場合は設計図書に示す
32	(砂防) 堤冠 (膠石コンクリート)	〃	—	—	80	〃	600以上	—	—	水セメント比は (34) 程度とする
33	(砂防) 堤冠 (富配合コンクリート)	〃	—	5	80	〃	300以上	4.0	—	水セメント比は (40) 程度とする 現場配合の場合は設計図書に示す
34	(砂防) 流路工・護岸・(砂防) 10 t 未満根固ブロック (砂防)主副ダム、側壁	〃	18	5	40	〃	—	4.5	○	現場配合の場合は設計図書に示す
35	(砂防) 流路工・護岸・(砂防) 10 t 未満根固ブロック (砂防)主副ダム、側壁	〃	21	5	40	〃	—	4.5	○	気象作用の激しい所 現場配合の場合は設計図書に示す

- 注：１）粗骨材の最大寸法25mm及び80mmは地域的に骨材の入手が不可能な場合のみ20mm及び40mmとすることができる。
- ２）設計図書に塩害対象を必要とする旨、明示した場合の橋梁上部工に用いるコンクリートの水セメント比は50%以下を標準とする。
- ３）セメントの種類は、N：普通ポルトランドセメント、H：早強ポルトランドセメント、BB：高炉セメントB種を示している。
- ４）追加特記仕様書設計図書において、別途コンクリート強度が定められているものについては、その設計基準によるものとする。

23	(河川) 護岸コンクリート張 (法面)	普通	18	3	40	〃	—	4.5	—	
24	(河川) 護岸基礎・根固ブロック・護岸コンクリート張 (平場)・堰 (無筋)	〃	21	5	40	〃	—	4.5	○	気象作用の激しい所
25	(河川) 護岸コンクリート張 (法面)	〃	21	3	40	〃	—	4.5	—	気象作用の激しい所
26	(河川・海岸) 護岸均しコンクリート	〃	—	3	25	〃	170以上	—	—	
27	(海岸) 波返し・表法張・基礎	〃	24	8	40	〃	—	4.5	○	
28	(海岸) 無筋コンクリート擁壁	〃	24	8	40	〃	—	4.5	○	
29	(海岸) 根固ブロック 10 t 以上	〃	24	5	80	〃	—	(4.0)	—	

30	(砂防) 主副ダム・側壁 (砂防) 10 t 以上の根固ブロック	〃	18	5	80	〃	—	4.0	—	現場配合の場合は設計図書に示す
31	(砂防) 主副ダム・側壁 (砂防) 10 t 以上の根固ブロック	〃	21	5	80	〃	—	4.0	—	気象作用の激しい所 現場配合の場合は設計図書に示す
32	(砂防) 堤冠 (膠石コンクリート)	〃	—	—	80	〃	600以上	—	—	水セメント比は (34) 程度とする
33	(砂防) 堤冠 (富配合コンクリート)	〃	—	5	80	〃	300以上	4.0	—	水セメント比は (40) 程度とする 現場配合の場合は設計図書に示す
34	(砂防) 流路工・護岸・(砂防) 10 t 未満根固ブロック (砂防)主副ダム、側壁	〃	18	5	40	〃	—	4.5	○	現場配合の場合は設計図書に示す
35	(砂防) 流路工・護岸・(砂防) 10 t 未満根固ブロック (砂防)主副ダム、側壁	〃	21	5	40	〃	—	4.5	○	気象作用の激しい所 現場配合の場合は設計図書に示す

- 注：１）粗骨材の最大寸法25mm及び80mmは地域的に骨材の入手が不可能な場合のみ20mm及び40mmとすることができる。
- ２）設計図書に塩害対象を必要とする旨、明示した場合の橋梁上部工に用いるコンクリートの水セメント比は50%以下を標準とする。
- ３）セメントの種類は、N：普通ポルトランドセメント、H：早強ポルトランドセメント、BB：高炉セメントB種を示している。
- ４）追加特記仕様書設計図書において、別途コンクリート強度が定められているものについては、その設計基準によるものとする。

誤植